

# Local Dynamical Systems and Their Isomorphisms

神戸大理 浦 太郎

## §0. 序

この講演の目的は *local dynamical systems* (*local systems* と略称) について得られた結果を, *category theory* の見地から, 述べることである. 述べられるべき結果は, 勿論この見地から意味を持つものに限定されるが, 特にここでは私のグループの木村有雄, 江川治朗, O. Hájek, D. H. Carlson, R. C. McCann, 池上宜弘によって得られたものと, それに関連したものとに限定する.

*Local systems* の意味は後にのべる. まず *categories* について説明する.

一つの *category*  $C$  は 二つの *classes*,  $\text{Obj } C$  と  $\text{Mor } C$  とから構成される.

$$\text{Mor } C = \sum \{ H_C(A, B) \mid A, B \in \text{Obj } C \}$$

と直積に分解される。

$f \in H_c(A, B)$  のとき  $A = Df$  と  $f$  の domain  
 $B = Rf$  と  $f$  の range とし、また  $f: A \rightarrow B$  と  
 かく、

$$H_c(A, B) \times H_c(B, C) \longrightarrow H_c(A, C)$$

が定義され  $(f, g) \mapsto g \circ f$  と表される。

$$(C1) \quad h \circ (g \circ f) = (h \circ g) \circ f$$

$$(C2) \quad \forall A \in \text{Obj } C, \quad \exists i_A \in H_c(A, A) \Rightarrow$$

$$\forall f \in H_c(A, B) \quad f \circ i_A = f$$

$$\forall g \in H_c(B, A) \quad i_A \circ g = g.$$

この要素  $i_A$  を identity of  $A$  とし。

$\text{Obj } C$  の要素を object,  $\text{Mor } C$  の要素を  
 morphism とし。

定義  $f \in H_c(A, B)$  の isomorphism とある  $\Leftrightarrow$

$$\exists g \in H_c(B, A), \quad g \circ f = i_A, \quad f \circ g = i_B$$

この  $g$  を  $f^{-1}$  とし。

$A, B \in \mathcal{C}$  の categories とする。  $T$  の  $A \rightarrow B$   
 の functor とあるとは、  $T$  は

$$\text{Obj } A \rightarrow \text{Obj } B \quad \text{射の写像}$$

$$(A \in \text{Obj } \mathcal{A}) \mapsto B \in \text{Obj } \mathcal{B} = T(A) \text{ 対応}$$

と、すべての pair  $A_1, A_2 \in \mathcal{A}$  に対応する写像

$$H_{\mathcal{A}}(A_1, A_2) \rightarrow H_{\mathcal{B}}(T(A_1), T(A_2))$$

$$(f \in H_{\mathcal{A}}(A_1, A_2)) \mapsto g \in H_{\mathcal{B}}(T(A_1), T(A_2)) \\ = T(f)$$

とからなりたち

$$(T1) \quad f \in H_{\mathcal{A}}(A_1, A_2), \quad g \in H_{\mathcal{A}}(A_2, A_3) \\ \Rightarrow T(g \circ f) = T(g) \circ T(f)$$

$$(T2) \quad \forall A \in \text{Obj } \mathcal{A}, \quad T(i_A) = i_{T(A)}$$

が成立するこゝである。

(Covariant functor とする)

$\mathcal{A}, \mathcal{A}'$  を  $\infty$  の categories とする。

$$\text{Obj } \mathcal{A}' \subset \text{Obj } \mathcal{A}, \quad \text{Mor } \mathcal{A}' \subset \text{Mor } \mathcal{A}$$

とすると、これらにより定義される inclusion maps

が functor  $\mathcal{A}' \rightarrow \mathcal{A}$  であること、 $\mathcal{A}'$  は  $\mathcal{A}$  の subcategory であること。

Dynamical systems の categorical な取扱を、ほつ  
きり提唱したのは Hayek [16] が最初であると思  
ふ。勿論それ以前にも実質的に categorical な取扱がな

されているが ([5] 参照), 意識的にこの立場から, 結果を出したのは Uta [27] が最初であると思う.

Local Systems を categorical に扱うに当たって, まず, 第一の問題には, 如何なる morphisms を与えるかという ことである. ここでは 数値系の morphisms を導入して, それに依って categories の間の functors の議論を行う. 第二は 導入された categories が実用上どんな意味をもつかを示すことである. 最後には sub-categories について universal object の存在の問題を解決する.

さらに数値系の morphisms を与えると述べたが, ここでは 特殊な monomorphisms (ある意味で embeddings) のみに議論は限定される. 本質的には isomorphisms を与えないが, universal objects の理解のためには embeddings 迄の拡張は是非必要である.

### §1. Local Dynamical Systems.

定義  $(X, D, \pi)$  が local (dynamical) system である, とは,  $\pi$  は  $D$  を定義域とする相空間  $X$  の上の loc. dyn. syst. である  $\xLeftrightarrow{d}$

$X$ : 位相空間

$$D = \bigcup_{x \in X} \{x\} \times I_x, \quad I_x (\ni 0) \text{ 区間}$$

( $D$  の位相は  $X \times \mathbb{R}$  の subspace 位相)

(LD, -1)  $\forall x \in X, I_x$  は open interval  $(= (a_x, b_x))$ ,

(LD, 0)  $D$  は open in  $X \times \mathbb{R}$ .

(LD, 1)  $\forall x \in X, \pi(x, 0) = x$

(LD, 2)  $(x, t) \in D, (x, t+s) \in D, (\pi(x, t), s) \in D$

$$\Rightarrow \pi(\pi(x, t), s) = \pi(x, t+s).$$

(LD, 3)  $\pi$  は continuous in  $D$ .

(LD, 4)  $x \in X, b_x < \infty \Rightarrow L^+(x) = \emptyset$

$$a_x > -\infty \Rightarrow L^-(x) = \emptyset$$

ただし,  $L^+(x)$  は  $t \uparrow b_x$  に沿った字像  $\pi(x, \cdot)$  の cluster set である。

$D = X \times \mathbb{R}$  のときは古典的  $\pi$  dynamical system である。ここでは, global (dynamical) system という  $L$  に対応して global system は local syst. の特別の場合である。  $D \neq X \times \mathbb{R}$  の時, 特には  $\neq \emptyset$  を強調するときには, strictly local という。

厂的には local system は autonomous syst of diff. equations の abstraction である。  $L \cap V$

最近では nonautonomous systems (= 非定常系) [27], さらには一般の Volterra 型方程式 (= 非定常系) [24], [3] 等について注意されることは, phase space  $X$  の nonmetrizable であることである.

$(X, D, \pi)$  を local system とする.  $M \subset X$  とする.  $x \in M$  に対して  $\pi(x, I'_x) \subset M$  となる, 最大守区間  $I'_x$  が存在する.

$$D_M = \bigcup_{x \in M} \{x\} \times I'_x$$

とある,  $\pi|_{D_M}$  は  $\pi|_M$  である,  $(M, D_M, \pi|_M)$

は一般には (LD) を満たすかどうかはわからない.

定義  $M \subset X$  に対して  $(M, D_M, \pi|_M)$  を local system である場合,  $M$  は admissible である.

定義  $\emptyset \neq M \subset X$  のとき,  $\forall x \in M, \pi(x, I_x) \subset M$

$$\Leftrightarrow M \text{ quasi-invariant}$$

$$M \text{ quasi-inv. } \forall x \in M, I_x = R \Leftrightarrow M \text{ inv.}$$

定理  $M \subset X$ ,

$$M \text{ open かつ } M \text{ quasi-inv.} \Rightarrow M \text{ admissible}$$

定義 Self intersecting points ( $P = P_n$ )  
 Singular points ( $S = S_n$ )  
 (省略)

## §2. Morphisms of Local Systems

$(X, D, \pi)$   $(Y, E, \rho)$   $\Leftrightarrow$  local systems

$$\text{と } \exists E = \bigcup_{y \in Y} \{y\} \times J_y, \quad J_y = (c_y, d_y) \ni 0$$

と notation  $E$  を決めておく。

一般に  $(X, D, \pi)$  に  $\exists$   $x \in X$  に  $\exists$

$$C_\pi(x) = \pi(x, I_x)$$

を  $x$  の orbit とする。

$$C_\pi: X \rightarrow 2^X$$

である

定義  $h: X \rightarrow Y$  homeomorphism

$$\begin{array}{ccc} X & \xrightarrow{h} & Y \\ \downarrow & & \downarrow \\ 2^X & \xrightarrow{h} & 2^Y \end{array} \text{ commutes}$$

$\Leftrightarrow h: \pi \rightarrow \rho$  NS-isomorphism.

定理 NS-isomorphisms vs category theory の

意味: isomorphism である。

一般に  $h: X \rightarrow Y$  map

$\varphi: R \rightarrow R$  map

また一般に  $\varphi: X \times R \rightarrow R$  map

するとき  $(h, \varphi)$  を

$$(x, t) \mapsto (h(x), \varphi(x, t))$$

によって定義された map  $X \times R \rightarrow Y \times R$

を表わすことにする。

また global systems  $(X, \pi), (Y, \rho)$  を与える

$$X \times R \xrightarrow{(h, \varphi)} Y \times R$$

$$\begin{array}{ccc} \downarrow \pi & & \downarrow \rho \\ X & \xrightarrow{h} & Y \end{array}$$

定義を予える。

commutes : 上の条件下で、次の様:

$$h: X \rightarrow Y$$

は常に homeomorphism とする

$(h, \varphi)$  : type 0-iso

$$\stackrel{d}{\iff} \varphi: R \rightarrow R \text{ は } R \text{ 上の continuous field}$$

と  $h$  との isomorphism

$$(\iff \varphi(t) = t)$$

$(h, \varphi)$  : type 1-iso.

$$\stackrel{d}{\iff} \varphi: R \rightarrow R \text{ は } R \text{ 上の continuous } \text{group}$$

と  $h$  との isomorphism



$$(\Leftrightarrow \exists c \neq 0, \varphi(t) = ct)$$

(h.  $\varphi$ ): type 2-isom

$\Leftrightarrow \varphi: X \times \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  は,  $(X \times \mathbb{R}, \pi), (Y \times \mathbb{R}, \rho)$   
 の vector bundles であるとき (h.  $\varphi$ ) による  
 isomorphism であるための条件

$$\left( \Leftrightarrow \begin{array}{l} \exists c: X \rightarrow \mathbb{R} \text{ (continuous)} \\ \varphi(x, t) = c(x) \cdot t \end{array} \right)$$

(h.  $\varphi$ ): type 3-isom

$\Leftrightarrow \varphi: X \times \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  は  $(X \times \mathbb{R}, \pi), (Y \times \mathbb{R}, \rho)$   
 の product bundles であるとき, (h.  $\varphi$ )  
 による isomorphism であるための条件 ( $\varphi(x, 0) = 0$ )

$$\left( \Leftrightarrow \begin{array}{l} \varphi \text{ continuous } \& \\ \varphi_x: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R} \text{ homeo } \& \varphi_x(0) = 0. \end{array} \right)$$

type 2 と type 3 である  $\varphi: X \times \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$

は continuous である。

Continuity と 全々 仮定なしの時 には type 2.5, type

3.5 であることになる。

Continuity と  $(X - \emptyset) \times \mathbb{R}$  の時に 仮定なしの時 には

type 2.25, type 3.25 となることになる。

Type 3.5-iso の形  $E \rightarrow E'$  へ, local systems  $(X, D, \pi)$   
 $(Y, E, \rho)$  へ  $\pi$  による  $\downarrow$  の変形下で.

$$\begin{aligned} D^* &= \bigcup_{x \in X} I_x^* & E^* &= \bigcup_{y \in Y} J_y^* \\ \forall x \in X \quad I_x^* &> I_x & \forall y \in Y \quad J_y^* &> J_y \end{aligned}$$

$h: X \rightarrow Y$  homeomorphism

$\varphi: D^* \rightarrow E^*$

$\forall x \in X \quad \varphi_x: I_x^* \rightarrow J_{h(x)}^*$  homeo.  $\varphi_x(0) = 0$

と  $(h, \varphi): D^* \rightarrow E^*$  であるから

$$\begin{array}{ccc} D^* & \xrightarrow{(h, \varphi)} & E^* \\ \cup & & \cup \\ D & & E \\ \downarrow \pi & & \downarrow \rho \\ X & \xrightarrow{h} & Y \end{array}$$

が意味のあるかぎり  $\cup$  の  $\downarrow$  は

$$h \circ \pi(x, t) = \rho(h(x), \varphi(x, t))$$

の右辺が意味のあるかぎり成立するものとする.

定理 上の仮定をあと  $\forall x \in X, \varphi_x(I_x) = J_{h(x)}$

かくて  $(h, \varphi)$  の  $D$  への restriction を  $\text{res}(h, \varphi)$

とあらわせば,

$$\begin{array}{ccc} D & \xrightarrow{(h, \varphi)} & E \\ \downarrow \pi & & \downarrow \rho \\ X & \xrightarrow{h} & Y \end{array}$$

commutes であることがわかる

定義 上: のベキ  $(h, \varphi)$  を GH-iso もしくは  
 type 4.5 iso とする。特に  $D^* = X \times \mathbb{R}$ ,  $E^* = Y \times \mathbb{R}$   
 のときは type 3.5 iso とする

local systems の type 3.5 iso. は global syst.  
 の type-3.5 iso. とあることは直ちにわかる。あとは  
 $\varphi$  の continuity と形に依って, type 4.25,  
 type 4, type 3.25, type 3. ... が local syst.  
 になることも定義されることは容易であろう。任意  
 continuity は  $D^*$  ではなく  $D$  の上でだけ議論する

$(h, \varphi)$  が  $D^*$  を  $E$  にうつすことの方がよく  
 なるから、一度、type 4.5 の type 3.5 の区別を  
 つけ替えて、 $D^*$ ,  $E^*$  は忘れてよい。問題は  $D, E$  を  
 与えられたとき  $\varphi_2$  が homeo のまま  $\mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  に  
 拡張できるかどうかである。前に述べた定理より

定理  $(X, D, \pi)$ ,  $(Y, E, \rho)$  が type 3.5-iso なら、  
 一方が global ならば他方も global である。

もしこれが  $\pi$  が strictly local,  $\rho$  が  
 global (もしくは、その反対) ならば  $(h, \varphi): \pi \rightarrow \rho$   
 が GH-iso ならば その type は  $\geq 4$  である。

便宜的に  $h$ : identity  $X \rightarrow Y$   
 $\forall z \in X$   $\varphi$ : identity  $\mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$

$(h, \varphi)$  が GH-iso ならば,  $(h, \varphi)$  は  $\text{type}(-1)$  の  
 あるもの).  $\text{type}(-1)$  は categorical  
 の意味で identity がある.

既: iso と同じ言葉を使っても, これは categorical  
 の意味で isomorphism である,

$$\begin{aligned} \text{Obj } C &= \{ \text{local systems} \} \\ \text{Mor } C &= \{ \text{type } n, m \text{ GH-iso} \} \end{aligned}$$

~~fixed  $n, m$  である~~ Category:  $\exists$   $n, m$   
 category:  $\exists$ . (Mor  $C \in \text{type } n, m$  <sup>iso</sup> である)  
 subcategory:  $\exists$ .)

定理  $\text{Obj } C = \text{Obj } C' = \{ \text{local systems} \}$   
 $\text{Mor } C = \{ \text{GH-iso} \}, \text{Mor } C' = \{ \text{NS-iso} \}$

$$T: C \rightarrow C' \in$$

$$T(\pi) = \pi, \quad T((h, \varphi)) = h$$

である  $T$  は functor である.

定義  $h: X \rightarrow Y$  homeomorphism

$$h(X) \text{ admissible w.r. to } p$$

$$h: \pi \rightarrow p \parallel h(X) \text{ NS-iso} \iff h: \pi \rightarrow p \text{ NS-embedding}$$

$$(h, \varphi): \pi \rightarrow \rho \parallel_{R(X)} \stackrel{(GH)}{\text{type } n \text{ iso}} \stackrel{d}{\Leftrightarrow} (h, \varphi): \pi \rightarrow \rho \text{ type } n \text{ embedding}$$

Obj  $C = \text{Obj } C' = \{ \text{local systems} \}$

Mor  $C = \{ \text{GH-emb} \}$     Mor  $C' = \{ \text{ONS-emb} \}$

$$T: \pi \mapsto \pi$$

$$(h, \varphi) \mapsto h$$

$\Rightarrow$   $T$  functor.  $C \rightarrow C'$

§3. Kimura-Uhara's Theorems.

定理  $(X, D, \pi), (Y, E, \rho)$  local systems,

$$h: \pi \rightarrow \rho \text{ NS-iso.}$$

$X$  ( $\text{LH} \Rightarrow \text{NS}$ ) :  $T_1$  space

$$\Rightarrow \exists \varphi (h, \varphi): \pi \rightarrow \rho \text{ GH-iso.}$$

$\varphi$  is  $D$ - $S \times R$  is unique and is  $S \times R$  is

定準する.

定理  $(X, D, \pi), (Y, E, \rho)$  local systems

$$(h, \varphi): \pi \rightarrow \rho \text{ type 4.5 and type 3.5 iso.}$$

$Y$  Hausdorff ( $T_2$ )  $\Rightarrow (h, \varphi)$  type 4.25 and type

3.25 2'あり

系  $(X, D, \pi), (Y, E, \rho)$  local systems $h: \pi \rightarrow \rho$  NS-iso,  $X: \text{Hausdorff}$  $\Rightarrow \exists \varphi \Rightarrow (h, \varphi): \text{type 4.25-iso.}$ 特異:  $\pi, \rho$   $\Sigma$ に global  $\varphi$ あり $\exists \varphi \Rightarrow (h, \varphi): \text{type 3.25-iso.}$ この  $\varphi$  は  $D\text{-}S_x R$  に unique,  $S_x R$  には  $\varphi$  がない。

Categorical version.

 $\text{Obj } C = \text{Obj } C' = \{ T_1 \text{ space } \pm \text{ local system } \}$  $\text{Mor } C = \{ \text{Obj } C \text{ の GH-iso } \}, \text{Mor } C' = \{ \text{Obj } C \text{ の NS-iso } \}$  $\Rightarrow \exists \text{ functor } T': T' \circ T = \text{identity } C' \rightarrow C$  $\text{Obj } C = \text{Obj } C' = \{ T_2 \text{ space } \pm \text{ local system } \}$  $\text{Mor } C = \{ \text{Obj } C \text{ の type 4.25 iso } \}, \text{Mor } C' = \{ \dots \text{ の NS-iso } \}$  $\Rightarrow \exists \text{ functor } T': T' \circ T = \text{identity } C' \rightarrow C$  $\text{Obj } C = \text{Obj } C' = \{ T_2 \text{ space } \pm \text{ singular pt. free } \}$   
local systems $\text{Mor } C = \{ \text{Obj } C \text{ の type 4 iso } \}, \text{Mor } C' = \{ \dots \text{ の NS-iso } \}$  $\Rightarrow \exists T^{-1}$

(以上: ある functor  $T$  は  $T: \pi \rightarrow \pi$ ,  $T: (h, \rho) \rightarrow h$ ).

定理 (Vinograd's Theorem の拡張) (Carlson [11])

$(X, D, \pi)$  local system,  $X$ : metric space

$\Rightarrow \exists (X, \rho)$  global system  $\ni (\exists \varphi \ni (\forall x \in X$   
 $\varphi_x \text{ increasing}))$   
 (identity,  $\varphi$ ): type 4 iso  $\pi \rightarrow \rho$

Vinograd's Theorem は [5] に 7 次の形に述べられて

いる。

$X \subset \mathbb{R}^n$  open set,  $\pi$ : autonomous system  
 of diff. equations (local Lipschitzian) に対する  $\pi$  の  $X$  上の  
 local system

$\Rightarrow \exists (\mathbb{R}^n, \rho) \ni \rho$

$h(X \rightarrow \mathbb{R}^n \text{ inclusion map})$

is an NS-embedding

$\rho$ : autonomous syst of ..... global syst.

しかし証明を読むには上の形の内容をもってやることはあ

る。

射のこの意味に解釈するとき,  $C^\infty$  manifold (finite  
 dimensional, separable) 上の  $C^1$ -local systems  
 に対して  $\varphi$  の  $C^1$  の条件で Vinograd's Theorem の成立が  
 成り立つことも示される(池上 [18]).

## §4 Some Applications

定義  $\Sigma$  を topological space とする。  $\forall \xi \in \Sigma$  の  $\xi \in \Sigma$  に対して,  $0$  を含む open interval  $J_\xi$  が与えられていて,  $X_b = \bigcup_{\xi \in \Sigma} \{ \xi \} \times J_\xi$  は  $X \times \mathbb{R}$  の中で open であるとする。  $D_p = \bigcup_{(\xi, \tau) \in X_p} (\xi, \tau) \times (J_\xi - \tau)$

とあって  $\pi_p$  を  $(\xi, \tau, t) \mapsto (\xi, \tau + t)$  で定義すると,  $\pi_p$  は local system になる。 この  $\pi_p$  を local parallel flow on  $X_p$  とする。  $\forall \xi \in \Sigma, J_\xi = \mathbb{R}$  ならば,  $\pi_p$  は global system になる。 そのときは  $\pi_p$  は (global) parallel flow とする。 Strictly local parallel flow の意味は容易に理解される。

定義  $(X, D, \pi)$  を与えられた local system とする。 Local parallel flow  $\pi_p$  が存在して,  $\pi$  が  $\pi_p$  と type- $n$  isomorphic なときは,  $\pi$  は locally type- $n$  parallelizable (on  $X$ ) とする。 特に  $\pi_p$  が global parallel flow のときは,  $\pi$  は globally type- $n$  parallelizable (on  $X$ ) であるとする。

$\pi$  が strictly local system として globally type- $n$  parallelizable ならば,  $n \geq 4$  ならば  $\pi$  は  $\pi_p$  である。



定理 [30].

Locally type 0 parallelizable

$$\Leftrightarrow \text{l. type 1 p.} \Leftrightarrow \text{l. type 2 p.}$$

$$\Leftrightarrow \text{l. type 3 p.}$$

Globally type 0 parallelizable

$$\Leftrightarrow \text{g. type 1 p.} \Leftrightarrow \text{g. type 2 p.}$$

$$\Leftrightarrow \text{g. type 3 p.}$$

( $X$  is Hausdorff  $\forall$  is  $\exists$  is)

$$\text{l. type 3 p.} \Leftrightarrow \text{l. type 3.5 p.} \Leftrightarrow \text{l. NS-p.}$$

$$\text{g. type 3 p.} \Leftrightarrow \text{g. type 3.5 p.} \Leftrightarrow \text{g. NS-p.}$$

はあきらかである。

定理 [13] Phase space  $X$  is completely regular  $\forall$  is  $\exists$  is,

$x$  is wandering pt.  $\exists$  is  $\exists$  is

$$\Leftrightarrow \exists U: \text{quasi-invariant neighborhood of } x$$

$$\rightarrow \pi|_U \text{ locally type 0 parallelizable}$$

定理 [13], [15]. Phase space  $X$  is locally compact, paracompact  $\exists$  is  $\exists$  is,

$$\pi \text{ is dispersive} \Leftrightarrow \pi \text{ is locally type 0 p.}$$

定理 [13]  $X$  is metric space  $\exists$  is  $\exists$  is,

$\pi$  is strictly local  $\exists$  is  $\exists$  is, 上記  $\Rightarrow$  の定理の条件

を  $\exists$  is  $\exists$  is globally type 4 parallelizable とかえ

ることが出来る。

この最後の定理は  $X$ : metric の仮定は必要である。

$X$ : completely regular, separable, the 1st countability の仮定でも定理が成立しない例を作る事が出来る [13]。

このことは、同じ仮定では Vinograd's Theorem が成立しないことも示す。

GH-iso, NW-iso の概念を localize することは容易である。その基礎は open set は常に admissible であることである。一点における parallelizability, 一つの軌道における parallelizability condition は上記定理と類似した形 ( $x$ : regular;  $x$ :  $\pm$  Poisson unstable) で与えられる [27] [28]。

Local isomorphism のもう一つの成功した応用例は Poincaré center の分類である。Poincaré center はその点に localize して global system と与えておくと、type 4 ~ は現われない。すべての Poincaré center は locally  $\pm$  NW-iso. である。L. E.  $\mu > 2$  Kimura Ueda's Theorems 1:  $\mu > 2$ , 常に type 3 25 isomorphic である。他の常に type 2 25 1:  $\mu > 2$  には応用される。

type 2 iso であるための必要+条件が得られずると  
 同時に  $(\text{type 2-25} \wedge \neg \text{type 2})$ ,  $(\text{type 2} \wedge \neg \text{type 1})$ ,  
 $(\text{type 1} \wedge \neg \text{type 0})$ ,  $(\text{type 0})$  の各 examples  
 が与えられる. [22]. 同じ方向の研究は Bendixson  
 centers (center-foci) にも行われるが, 得られる  
 結果は NS-iso (1th order type 2-25-iso) のための条件  
 だけである [23].

### § 5. Universal Dynamical Systems

$\mathcal{C}$  を  $\text{Obj } \mathcal{C}$  の local systems からなるようなある  
 category とする

$(\exists p \in \text{Obj } \mathcal{C}) \forall \pi \in \text{Obj } \mathcal{C}, \exists f \in \text{Mor } \mathcal{C} \rightarrow f: \pi \rightarrow p$   
 のとき  $p$  を  $\mathcal{C}$  の universal (dynamical) system  
 と言う. そのような  $\mathcal{C}$  と  $p$  とを求めることが問題  
 であるが,  $\text{Obj } \mathcal{C}$  はできるだけ大きく,  $\text{Mor } \mathcal{C}$  は  
 できるだけ小さくすることが望ましい.

古典的な結果は次のものである

定理 [5]

$\text{Obj } \mathcal{C} \ni \pi \iff \pi$  は metric separable space

上の global type 0 p flow

$\text{Mor } \mathcal{C} \ni (h, \varphi) \iff$  上の objects の間の type 0 emb.

に対して  $\sum \xi_n^2$  conv. なる 数列 全体 の Hilbert space  
 上の parallel flow は universal system である。

この定理は次の様に拡張される

定理

$\text{Obj } C \rightarrow \pi \iff \pi$  は separable metric space  
 上の local parallel flow

$\text{Mor } C \rightarrow (h, \varphi) \iff C$  の objects の間の type 0  
 embedding

に対して上の定理の universal system はやはり universal  
 である。

もう一つの古典的な定理は Bebutov [6], [7] による  
 ものであるが、最近 角谷 [19] Hajek [17] によって  
 拡張された

定理

$\text{Obj } C \rightarrow \pi \iff \pi$  は locally compact separable  
 metric space 上の  $S_\pi$  の  $R^N$  の  
 closed set と ~~同型~~ <sup>homeo</sup> である ~~こと~~, <sup>global system</sup>  $S_\pi$  は  
 $C(R, R^N)$  の shift transformation  
 group (  $\tau \in \pi_0$  とかく )

$\text{Mor } C \rightarrow (h, \varphi) \iff C$  の objects の間の type 0  
 embedding

に對して  $\pi_0$  は universal である。

Carlson による Vinograd's Theorem の拡張を便之は

定理

Obj  $C \rightarrow \pi \iff \pi$  is locally compact separable  
metric space 上の  $S_\pi$  の  $R^N$  の  
closed set と homeo である  
local system, 其は上記  $\pi_0$

Mor  $C \rightarrow (h, \varphi) \iff C$  の objects の間の  
type 4 embedding である  
 $\forall x \in X, \varphi_x$  increasing であるもの

に對して  $\pi_0$  は universal である。

最近得られた, この方面の最も有力な結果は Carlson  
によるものである。 集合  $C_V$  を次の様に定義する

$$C_V \ni \phi \iff \begin{aligned} (1) & \quad \phi \in C(R^2, R) \\ (2) & \quad |\phi(x_1, x_2)| \leq e^{-\frac{1}{2}(x_1^2 + x_2^2)} \\ (3) & \quad \phi(x_1, x_2) e^{\frac{1}{2}(x_1^2 + x_2^2)} \rightarrow 0 \\ & \quad \text{as } (x_1^2 + x_2^2) \rightarrow \infty. \end{aligned}$$

$C_V$  に次の様に metric を  $\Lambda$  する

$$d(\phi_1, \phi_2) = \sup \left| e^{\frac{1}{2}(x_1^2 + x_2^2)} (\phi_1(x_1, x_2) - \phi_2(x_1, x_2)) \right|$$

つまり

$$\begin{aligned}
 p_0 : C_V \times \mathbb{R} &\longrightarrow C_V \\
 \varepsilon \quad (\phi, t) &\longmapsto \psi \\
 \psi : \mathbb{R}^2 &\longrightarrow \mathbb{R} \\
 (x_1, x_2) &\longmapsto e^{(x_1+x_2)t+t^2} \phi(x_1+t, x_2+t)
 \end{aligned}$$

と定義する.  $p_0$  は  $C_V$  上の global system である  
定理 [10].

$\text{Obj } C \ni \pi \xleftrightarrow{d} \pi$  は separable metric space  
上の global system

$\text{Mor. } C \ni (h, \varphi) \xleftrightarrow{d_0} C$  の objects 間の type 0  
embedding.

写り  $C$  に対応して  $p_0$  は universal である

この定理に対応して  $\overline{C}$  と同様, objects  $\varepsilon$  local  
embedding 長  $v$ , morphisms  $\varepsilon$  type 4 increasing  
embedding 長  $v$  ならば,  $p_0$  は  $C$  上の universal  
である.

## References

*Books*

- [1] N. P. Bhatia and G. P. Szegő; *Dynamical Systems: Stability Theory and Applications*, Lecture Notes in Mathematics, 35, Springer-Verlag, Berlin 1967
- [2] W. H. Gottschalk and G. A. Hedlund; *Topological Dynamics*, Amer. Math. Soc. Coll. Publ., XXXVI, Amer. Math. Soc., Providence, R. I., 1955
- [3] R. K. Miller and G. R. Sell; *Volterra Integral Equations and Topological Dynamics*, Memoirs of the Amer. Math. Soc., 102, 1970
- [4] J. Milnor; *Differential Topology*, Lecture Notes, Princeton University Press, Princeton N. J., 1958
- [5] v.v.Nemytskii; *Topological Problems of the Theory of Dynamical Systems*, Translated from Usp. Mat. Nauk (N.S.) 4, no.6, 34 (1949), 1-153. Translation no.103, Amer. Math. Soc.
- [6] \_\_\_\_\_ and v.v.Stepanov; *Qualitative Theory of Differential Equations*, (English tr.), Princeton Univ. Press., Princeton N. J., 1960
- [7] V. I. Zubov; *Methods of A. M. Lyapunov and Their Application*, P. Noordhoff Ltd., The Netherlands, 1964

*Papers*

- [8] S. Ahmad; *On Ura's Axioms and Local Dynamical Systems*, Funkc. Ekvac., 12 (1969), 181-191
- [9] D. G. Belanger; *Continuous Reparametrization of Dynamical Systems*, Funkc. Ekvac., 14 (1971) (to appear)
- [10] D. H. Carlson; *Universal Dynamical Systems*, (to appear)
- [11] \_\_\_\_\_; *A Generalization of Vinograd's Theorem for Dynamical Systems*, (to appear)
- [12] J. Dugundji and H. A. Antosiewicz; *Parallelizable Flows and Lyapunov's Second Method*, Ann. of Math., 73 (1961), 543-555
- [13] J. Egawa; *Global Parallelizability of Local Dynamical Systems*, Math. Syst. Theory (to appear)

- [14] O. Hajek; Structure of Dynamical Systems Commentat. Math. Univ. Carol., 6, 1, (1965), 53-72
- [15] \_\_\_\_\_; Parallelizability Revisited, Proc. of Amer. Math. Soc., 27 (1971), 77-84
- [16] \_\_\_\_\_; Categorical Concepts in Dynamical Systems Theory, Topological Dynamics, An International Symposium, Benjamin, New York 1968, 243-258
- [17] \_\_\_\_\_; Representation of Dynamical Systems, Funkc. Ekvac. 14 (1971) (to appear)
- [18] G. Ikegami; Vinograd's Theorem on Manifolds, Proc. of Japan Academy (to appear)
- [19] S. Kakutani; A Proof of Beboutov's Theorem, Journ. of Diff. Equat., 4 (1968), 194-201
- [20] I. Kimura; Isomorphisms of Local Dynamical Systems and Separation Axioms for Phase-Spaces, Funkc. Ekvac., 13 (1970), 23-34
- [21] 木村郁雄; 局所力学系の同型写像について  
函数方程式 23 (1970), 1-19
- [22] R. C. McCann; A Classification of Centers, Pacific Journ. of Math., 30 (1969), 733-746
- [23] \_\_\_\_\_; A Classification of Center-foci, Pacific Journ. of Math., 32 (1970), 467-478
- [24] R. K. Miller and G. R. Sell; Existence, Uniqueness and Continuity of Solutions of Integral Equations, Annali di Matematica pura ed applicata, LXXX (1968), 135-152
- [25] G. R. Sell; Nonautonomous Differential Equations and Topological Dynamics, 1. The Basic Theory, Trans. Amer. Math. Soc., 127 (1967), 241-262
- [26] T. Ura; Sur le courant extérieur à une région invariante, Prolongement d'une caractéristique et l'ordre de stabilité, Funkc. Ekvac., 2 (1959), 143-200; 2<sup>e</sup> éd., 105-143
- [27] \_\_\_\_\_; Local Isomorphisms and Local Parallelizability of Dynamical Systems, Dynamical Systems, An International Symposium, Benjamin, New York, 1968
- [28] \_\_\_\_\_; Local Isomorphism and Local Parallelizability in Dynamical Systems Theory, Math. Syst. Theory, 3 (1969), 1-16



- [29] T. Ura; Isomorphisms and Local Characterization of Local Dynamical Systems, Funkc. Ekvac., 12 (1969), 99-122
- [30] \_\_\_\_\_ and J. Egawa; Isomorphism and Parallelizability in Dynamical Systems Theory, (in preparation)